

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「利用者様が寂しさや不安から開放され、毎日を楽しみ暮らして頂くことを目指します」の理念を作り上げ、毎日の申し送りの際に唱和し確認している。 | 法人の理念の実現を職員全員で目指しており、玄関に掲示し、来訪者にも発信している。職員は毎日唱和しその主旨を共有しており、全体会議やカンファレンスでは常に利用者の気持ちを考えながらケアに努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の班に入り、回覧板を回したり、川掃除にも参加している。また、地区の行事のお花見、お祭りも参加している。高丘小学校・合唱団や中野市小学校4年生主催のふれあいコンサートに招待され交流している。豊田中学校1年生が福祉体験に来ている | 区長からのあたたかい提案により地域の班に加入し、河川清掃等、地区行事に参加したり回覧版などで地域の情報を得ている。地域のサロンに数人の利用者が参加している。地元の小学校から運動会や音楽会等の招待をうけ、今年度は2回程合唱班の来訪もあり、利用者は満面の笑顔で交流したという。近所の方から野菜をたくさんいただいたり、地域のボランティア(リコーダー・紙芝居など)の来訪も定期的にあるので利用者は地域の中ではありあけをもって生活している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 民生委員を通じふれあいサロンに参加させて頂き、ここでの様子や状態を話し、理解が得られるように努めている。中野市から視察にも来ていただき、このホームの支援方法や、認知症についての説明をし、理解を得ている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 家族、行政、民生委員、区長、利用者代表に出席していただいている。利用者の状況、行事、研修会、事故、職員の移動等の報告をし、意見や要望を聞きながら相談したり、話し合いをしている。本年度は、5/7、8/10、9/28実施。 | 奇数月に利用者、家族代表、区長、民生委員、市介護保険課・地域包括支援センターの職員が出席し、利用者の様子やケア状況の報告、職員の異動報告、研修、運営などについて活発に話し合っている。最近では、家族代表から、毎月郵送されるホームの便りに翌月の行事予定日の記載があると参加しやすいとの意見があり早速取り組んでいる。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市担当者や地域包括支援センターと連絡を取り合い相談、報告等している。介護認定調査員には、利用者の様子を伝えている。毎月第3火曜日の中野市事例検討会に出席し、情報を得て介護に活かしている。中野市介護相談員2名が3ヶ月に1度来社され利用者の相談等を聞いている。 | 市が主催する会議や研修には理事長、管理者が出席し情報交換している。ケアマネージャー連絡会、事例検討会などは職員が出席しケアサービスについて質の向上に努めている。介護認定更新調査の申請や調査の立ち合いなど家族の依頼により代行している。介護相談員が3カ月毎に来訪し利用者の話を聴いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日中は施錠せず、チャイムや見守りによりケアを実施しているが、利用者の安全を確保する必要がある場合は施錠する場合もある。身体拘束について会議で話し合い、職員同士で理解している。夜間は、防犯上施錠している。 | 職員は身体拘束に当る行為を研修等で理解している。利用者の安全を守るためやむを得ない場合は書面で家族の同意を得る体制になっているが、カンファレンスで利用者の気持ちを話し合い、拘束をしないケアを実践している。昨年冬、離脱傾向の強い利用者がホームから一時的にいなくなり、警察や地域の協力を仰いで探し、趣味の会で顔なじみの近所の方が保護し連れてきていただいたという。 | |

ヒューマンヘリテージ安源寺

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 全体会議で勉強会を開き、職員も理解している。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 全体会議で勉強会を開き、職員も理解している。後見人制度について必要なケースがあり、地域包括支援センターや、利用者との話し合い後見人制度を活用している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用契約時には、文書で示し口頭で説明している。不明な点、不安、疑問な事がないか確認し、説明している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 行事(敬老会、クリスマス会)でご家族に参加して頂いている。面会に来られた時に、日頃の様子をお伝えし、要望等がないか確認している。ご家族からの声は会議で話し合い、ケアやサービスに活かしている。 | 日頃から利用者の意見をゆっくり聴くようにしており、カンファレンスで話し合いケアに活かしている。クリスマス会にあわせて家族会を開催し、家族の意見・要望を聴くようにしている。利用して間もない方はもちろん、預かっていたという意識が強く家族がなかなか要望を言えないのではと考え、小まめに利用者の状況を伝えながら関係づくりに努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎日の申し送り(8:30～)や全体会議等で、職員の意見や提案を聞く機会を設けて実行している。 | 全体会議を月に1回開催し、理事長、管理者、職員が出席し事務連絡、介護計画の検討のほか理事長を中心にテーマに沿って勉強会を行っている。毎日ミニカンファレンスを行い、利用者のケアについて職員間で意見を出し合っている。職員は年1～2回、本部総務担当者と面接を行い、意見や要望などを伝えている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 事務方に職場環境、処遇状況整備担当者を設けて定期的に見直しを行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 月1回社内研修、幹部(管理者・主任)研修等で職員の理念意識、実務の力量、自己啓発チェックを行っている。管理者、主任は認知症介護実務者研修を受講しており、今年度は職員一人が受講し、修了している。 | | |

ヒューマンヘリテージ安源寺

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 県グループホーム連絡会、市事例研究会等のネットワークを活かし、質の向上に努めている。3ヶ月に1度北信グループホーム交流会に管理者、主任、職員が出席し、他のグループホームの職員と意見交換や困難事例を考える勉強会に参加し、質の向上に努めている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前からご本人、ご家族と面接し不安な事や悩み事、要望等を聞きながら、安心して暮らして頂けるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | どんな事でも、相談して頂くように伝えている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用者、ご家族の意思を確認し、その方にあったサービス利用を紹介したり、相談に乗っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者一人ひとりを家族のように思い接している。ホームは自宅ではないが、自宅のように安心して生活して欲しいと考えのもと接している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 昔の生活経験、習慣を尊重し、趣味等をホームでも続けていかれるように支援している。ご家族と相談しながら、安心して生きがいを持って暮らして頂けるように、支えながら関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 利用者の気持ちを大切に、行きたい場所や会いたい方がいる場合は、希望に沿えるよう支援している。馴染みの床屋やお店にも行くなどの支援をしている。 | 知人、友人、昔の職場の同僚、近所のお茶飲み仲間等の来訪がある。馴染みの美容院に通っている利用者もいる。ホームの自主的な取り組みとしての「願いごとを叶えよう計画」で実家に行き家族と写真撮影をしたり、幼いころから親しんでいる隣の栗菓子を食べに外出した利用者もいる。 | |

ヒューマンヘリテージ安源寺

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員が間に入り、雰囲気作り、仲間作りができるように支援している。行事やレクレーション等にも職員が入り、利用者同士が関わりを持てるように支援している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去後もご家族、ご本人が訪問しやすいように努めている。退去後もその後の状況把握に努めるように連絡を取り合っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの思い、気持ち、意向を1番に考え、希望や意向に沿った個別支援をしている。困難な場合はご家族や職場でよく話し合い考えている。 | ほとんどの利用者は思いや意向を言葉で職員に伝えることができ、その都度応えるようにしている。自ら表出するのが難しい場合は職員が表情や動作から思いを感じるようにし、職員間でミニカンファレンスをして常に検討している。意向に合わせ、ホームの別ユニットにいるご夫婦の利用者が昼食の時間を共に過ごすこともある。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の生活歴、生活環境、入居までの経緯等アセスメントを通して把握するよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日の様子を個別に見守りを行い、どのように過ごされているか、異変はなかったか等記録をノートに残し、一人ひとりの過ごし方を把握できるように努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 利用者、ご家族とよく話し合い、主治医、看護師等の意見を聞き、職員がアセスメントを行い、その後カンファレンスを行っている。結果をもとに介護計画を作成している。見直しは3～6ヶ月で行い、ご家族、利用者に説明し同意を得ている。 | 市高齢者支援課職員の訪問指導を受けたり同業者の勉強会に参加し計画作成について研鑽を積んでいる。職員は1～2名の利用者を担当しアセスメントを行い計画作成担当者と一緒に本人や家族の意向に沿って介護計画を作成している。6カ月で再アセスメントし短期目標を見直している。全体会議や毎日のミニカンファレンスで、計画に沿ったケアが実践されているかを評価・共有し話し合っている。また全職員が理解しやすい書式で記録し、全員で共有することですぐにケアに活かしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護計画に沿ったケアができているか、毎日の個別記録に記入している。意向に沿ったケアができているか、無理はないか等、職員間で話し合い実践につなげたり、介護計画の見直しに活かしている。 | | |

ヒューマンヘリテージ安源寺

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その時々ニーズに応じ柔軟な支援を行っている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近隣の方々、安源寺区長、民生委員、地区の皆さんの協力を得ている。散歩時の見守りや声掛けに協力してもらい、安全に外出できている。安源寺地区のふれあいサロンに利用者、職員が参加している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人やご家族の希望を確認し、かかりつけ医を受診している、看護師や職員が付き添い状態を説明する事もある。 | 本人や家族の希望するかかりつけ医での定期受診(訪問診療を受ける利用者もいる。)を支援している。家族の依頼により職員が付き添うことも多いという。契約医療機関から月2回訪問看護師が訪れ利用者の健康状態について把握し、ホームの看護師や職員と情報共有し適切に対応している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 新生病院訪問看護ステーションと医療連携を契約して、定期的に(月2回以上)訪問してもらい、看護師に相談、指導、医療行為等を行ってもらっている。看護師が週4~5日勤務し、一人ひとりの健康管理をしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院関係者と相談、情報交換を行っている。入院中は週に1~2回面会に行き、病棟の医師、看護師、ケースワーカーから状態、経過等を聞くようにしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 全体会議で終末ケア等について職員全員で話し合っている。「重度、看取りについての指針」に基づき、契約時にご家族に説明し、終末期状態になった時の確認をしている。早い段階から利用者、ご家族、主治医、看護師等と話し合い、医療機関に移られたケースもある。看取り対応の場合は、医師、看護師と連携し、チームで支援していくよう取り組んでいる。 | 契約時、「重度化・看取りについての指針」について本人・家族に説明し同意を得ている。重度化への対応については協力医療機関と24時間の連携体制をとっている。医療的な支援が必要になると家族の希望で入院する利用者も多い。高齢の利用者が多くなっているので、この1年間、直前までホームで過ごし数名の方が入院した。入院後も度々訪れ関係を継続して支援している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変、事故発生時について慌てず対応が出来るよう会議で常に話し合っている。職員が応急手当、初期対応が出来るよう看護師から指導を定期的受けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 防災設備は消防法指定のものは全て備えている。年2回は避難訓練を行う。自主訓練と消防署の指導を受けて避難訓練を行っている。(4/24と10月に消防署指導の訓練を予定) | 訓練は年2回、そのうち1回は消防署の立ち合いで、通報、避難・誘導を地区の方の協力を得て実施している。地区の方から避難時に利用者の名前がわかった方が良いとの提案があり、訓練時用のネームを準備することとなった。管理者は市主催のリスクマネジメントの研修会に参加し、停電時や水害等いろいろな場面を想定して対策を立てている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 全体会議で個人情報の保護やプライバシー等について話し合っている。声掛けにも利用者の気持ち、思いを損ねないような言葉がけを全職員が行っていくよう話し合い、努めている。 | 職員は毎年接遇について法人の内部研修で学んでいる。利用者の気持ちを尊重してケアを行い、特に排泄に関するケアの時には配慮が必要であると考え、そっと声をかけるなど尊厳を大切に接している。また、入浴では同性介助を希望する利用者には応じている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者の思いや希望を聞けるよう毎日の生活の中で声掛けをしたり、様子を伺っている。利用者が自己決定できるような声掛けを常に心がけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者の希望に沿った生活をしていただいている。一人ひとりのペースを保てるようにしている。利用者に関わる時は、ゆったり優しく対応するように心がけている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 利用者が望む時に馴染みの床屋に行かれる方や、訪問理容を利用されている方もいる。毎日の洋服は、利用者が選んだり、職員と一緒に選んでいる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事を楽しみにされているので、彩りよく、季節に合ったメニューにしている。食事の準備、下ごしらえ、片付け等利用者の方と一緒に出来るように支援している。 | 献立は職員と利用者が一緒に考え、毎日の調理も利用者が野菜の皮むきなどの下ごしらえを調理にも参加している。利用者に合わせてあらかさまにして食べやすい配慮をしている。クリスマス会にはバイキング形式の料理が出され、正月、ひな祭り、誕生会など行事に合わせて楽しみのある食事となるよう工夫している。また外食にも度々出かけ、回転寿司、そば店等で好みのものを楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりに合わせて、盛り付け量や水分量を調整している。食事制限のある方には、代替りのものを付けるなどしている。利用者の状況に合わせて、おかゆの対応もしている。毎日、牛乳、コーヒーを飲んでいた方は、好きな時に飲める対応をしている。 | | |

ヒューマンヘリテージ安源寺

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアの見守り、声かけ、介助を行い、歯磨きのチェックをしている。義歯の方は、夜お預かりしポリドントで消毒を行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | オムツを出来る限り使用しないで済むように、排泄パターンを把握し、排泄の声かけ、誘導、見守り、介助を行っている。排泄表をつけて確認している。不快に感じる事無く、気持ちよく過ごして頂けるように支援している。 | トイレでの排泄を出来るだけ支援している。排泄チェック表により職員全員が利用者の排泄状況を把握しており、適切に声掛けや誘導することで失敗が少なくなっている。夜間はゆっくり眠りたいとの利用者の意向を尊重しオムツを使用し支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 野菜中心の食事で果物や牛乳も摂取していただき、便秘にならないように支援している。体操や散歩等で身体を動かして頂くように努めている。看護師が必要な時に、医師の指示のもと排便や浣腸を行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 週2回以上は入浴されている。入浴に声かけをし、一人ひとりの希望やタイミングに合わせている。利用者によっては、職員が2人体制で介助する。介助が必要でない方にも、万が一に備えそっと見守りをしている。季節に沿った入浴も楽しんで、歌をうたったり、昔話、世間話等される。 | 利用者の体調等に合わせ週2回は入浴できるよう支援している。車椅子を使用している利用者も職員2人の介助で湯船に入り温まっている。入浴を拒んでいた利用者も職員が気持ちを察しある言葉がけをしたことで入浴できるようになり、それ以降、職員と馴染んで日常の暮らしの中で表情が明るくなり活動も増えたという。家族と温泉に行く利用者もいる。今後重度の利用者の安全な入浴のための介助や設備について検討していこうという意向がある。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの気持ちに合わせた自由な生活を心がけている。昼間は身体を動かす事、夜間は良眠して頂くように支援している。自分のペースで起床して頂き、遅めの朝食になることもある、 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬局の処方箋を利用者毎にまとめ、ファイルに綴っている。看護師が仕分けし、飲み忘れのないようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの生活歴、趣味、職業等を聞き、ホームでも続けていかれるような事を職員で話し合い支援している。役割や楽しみを持って張り合いのある生活が送れるように支援している。 | | |

ヒューマンヘリテージ安源寺

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 昨春秋より「願い事をかなえよう」計画を立て、やりたい事、行きたい場所を利用者、ご家族からお聞きし計画・実行している。また、出かけた際には、希望に沿えるよう努めている。ホームの行事として、お花見、小学校の音楽会・運動会、外食等出かける機会を多くしている。 | 「願いごとを叶えよう計画」を実践するなかで、海を見に行きたい、幼少期育った実家に行きたいなどの希望にそって個別の外出計画を立て実行し、行った後に利用者から「また行きたい」との声も聞かれ利用者の満足につなげている。また年間外出計画で北陸新幹線開通の飯山駅など話題になっている場所に向かい、季節に合わせて花見や近くの寺に行くなど、家族の協力も得て楽しみのある外出支援を続けている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理が出来る方は、自身で管理して頂き、希望や力量に応じ支援している。管理が難しい方は、ご家族よりお預かりしたお金を、金銭出納帳に記入・管理を行い、定期的にご家族に確認をしていただく。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 居室に電話を設置されている方もいる。電話の取次ぎや借りたい希望がある方は、希望に沿える対応をしている。手紙や葉書は利用者にお渡ししている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | オールバリアフリーで、食堂・居間・廊下には柔らかな照明のもとで安全性に優れた家具を備えている。居間には季節によって羽子板・ひな人形・五月人形・クリスマスツリー等、飾り付けで季節感を取り入れている。 | 調理スペースと食堂兼リビングが近いので利用者と職員は話をしながら食事作りができる。食堂にはカーペットが敷かれソファーやテレビがあり、昼食後ゆっくりくつろぎながら洗濯物を畳んだり会話を楽しんでいた。テラスに続く窓から柔らかな陽ざしが差し込んで、天気の良い日はテラスに出て日向ぼっこやお茶を飲むこともある。壁には利用者全員で描いたコスモス畑の作品や外出時の明るい笑顔の写真が貼ってあり温かい雰囲気が感じられた。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居間にはソファー、廊下にはベンチを置き、利用者が気軽に座り、お茶を飲んだり会話を楽しめる環境、雰囲気を作り出している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 各居室には利用者の馴染みの物や、使い慣れた物を自由に持ってきていただいている。自宅での生活を継続できるようなお部屋作りをしていただいている。 | ベットやエアコン、ロッカーが備え付けられ、利用者は使い慣れた机、物入れや椅子、趣味の茶道の道具入れ等を置き、自由に思い思いの居室づくりをしている。家族の写真やご主人の位牌などもあり家庭的な雰囲気が感じられた。イーストユニットの居室にはトイレと洗面台があり余裕のあるスペースで手すりもとりつけられ使用しやすいようになっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人ひとりの状態に応じて居室等にわかりやすい貼り紙をしたり、混乱しないように工夫している。利用者が出来るだけ自分で出来る生活が送れるように心がけている。 | | |